

平成21年 12月25日

新聞委員会

巢山・奥村・小澤・那須野

辰野高校



辰野高校は、普通科と商業科がある学校！



フェンスをキャンバスに



地元企業からの依頼にこたえて、美術部は資材置き場のフェンスに壁画アートを完成させました。依頼主は、パークホテルやかやぶきの館などを手がけ、辰野高校の校舎の一部もお世話になった松田建設です。

依頼を受けたのは九月でしたが、定期試験や2人がかけ持ちの演劇部が県大会に出場するなどで中断の時間もあったために完成は十二月十七日でした。

依頼のテーマは「環境」で、絵の中に「1♥地球」（ハートの模様を地球）を描き、緑と水を大切にしたいとのメッセージを込めました。（デザインを担当したE・Aさん）

夜になるとイルミネーションが光り、絵を浮かび上がらせています。

短歌で受賞！



「全国短歌フォーラム in 塩尻」で5名の作品が入賞しました。毎年応募者が増える同フォーラムに、今年は学生の部だけで全国から七千八百名余の投稿がありました。その中から、本校では入選2名（高校生十四名）と秀作3名（同百二十一名）という快挙でした。二学期終業式の前におり全校生徒の前で賞状が手渡されました。

いずれも素直に自分の気持ちを読み上げたすばらしい短歌だそうです。

入選

帰り道一緒に歩く影法師
寂しくないさ君がいるから

T・I

入選

同じ服同じ髪型同じ靴
背丈とともに遠くなる距離

Y・U

文化系部活の合同発表会

が2月11日に決定！

今年度で3回目となる合同発表会を、辰野町民会館で実施します。（午後開演）皆様のおいでをお待ちしております。

地域を未来につなぐ

商業科の新たな試み

新商品の開発

今年度も、地元の業者さんにご協力をお願いして、生徒が企画・開発した商品販売しました。先輩から受け継いだ「たつの弁当」を改良し、パッケージも新しくしました。

「辰高バーガー」は今年も人気で、うわさを聞きつけて買いにきてくれるお客さんが絶えません。

また、2年生、3年生が新たに開発した商品が加わりました。

新商品ラインナップ



カップinごはん
3種類

チーズ入り蒸しパン
月のホタル



辰高フォーラム
第1分科会では、
新商品開発のテ
ーマで、地元業者
を招き話し合い。
辰野町で最近
人気「ほたる井」
開発者から苦労
話をお聞きし、こ
れからの販売の
参考にしました。



地域活性化のために...

十二月十四日、松本大学より白戸教授をお迎えし、商業科2年生全員が大学の授業を受講しました。

白戸先生は総合経営学部の観光ホスピタリティ学科の教授で、地域産業を調査し、どうしたら地域が元気になるかを学生と一緒に考えてきました。最近では、伝統野菜の「松本一本ねぎ」や「むかご」(ナガイモの副産物)で捨てられることが多いに光をあて、地域の特産に育て上げました。また、これらの地元食材を使った「カッブDON(どん)」を大手コンビニと共同開発して販売するという経験を授業の中で紹介しました。

©長野日報



写真提供:長野日報社

商品開発のお話で印象に残ったのは「地元の人たちとのコミュニケーション」です。地域食材の特長、効果を活かすために、お互いの意見を尊重しながら充分話し合うことが大切だと思います。そうすることで売り上げが伸び、地域の活性化にもつながります。私たちが先頭に立ち地域を未来につなげていきたいと思えます。(感想文)

学習合宿

商業科1年生は、総合教育センター(塩尻)にて、1泊2日の学習合宿をおこないました。みんな学習に取り組み、集中力が持続し、簿記担当の先生によると、普段の授業の約3週間分ができたということでした。2日目は、コンピュータ会計の体験もできました。



コンピュータ会計に挑戦!

大学見学

商業科1年生は、松本大学・松商短期大学の見学をおこないました。大学生が授業を受けている様子を見学したり、大学の先生から、大学で学ぶ意義などのお話を聞くことができました。特に、今商業科で学んでいることをさらに広く深く学び、7年間の継続学習で高度な資格取得や興味をもった分野の研究が充実するなどのメリットを感じました。



大学生の案内で見学。